

◎行政報告

○議長（山本浩平君） 日程第4、行政報告を行います。

町長から行政報告の申し出がありますのでこれを許可いたします。

戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 平成26年白老町議会定例会6月会議の再開にあたり行政報告を申し上げます。

初めに6月7日、8日に開催された第25回白老牛肉まつりが白老牛銘柄推進協議会を中心に関係機関協力のもと開催されました。回を増すごとに来場者もふえ今では町内最大のイベントにまで成長してきております。ことしは両日ともあいにくの雨にもかかわらず道内外から3万人もの皆様にご来場いただき白老牛を堪能いただきました。改めて感謝を申し上げますとともに白老牛が広く道民の皆様認知され本町を代表するブランドとして確立してきたものと確信しているところであります。

次に6月13日に閣議決定されたアイヌ文化の復興等を促進するための民族共生の象徴となる空間の整備及び管理運営に関する基本方針についてであります。この基本方針には国立の（仮称）アイヌ文化博物館や民族共生公園、慰霊施設等が平成32年7月のオリンピック・パラリンピック東京大会にあわせ本町がポロト湖畔で一般公開されること、運営についてはアイヌの人々の主体的な参画を確保すること等が盛り込まれております。閣議決定は政府全体の意思決定であり政府一丸となって本政策の推進に取り組むという証しであることから、町では本決定をより大きな一歩として歓迎し引き続きアイヌ協会やアイヌ民族博物館等と連携・協力しながら伝承文化の保存活用と人材育成、加えて同博物館の知見を確実にその管理運営に引き継ぐため尽力してまいります。また一般公開に向けて国内外から多くのお客様を迎えるための準備を白老町活性化推進会議等によりオールしらおいの体制をもって積極的に取り組んでまいり所存であります。

次に定住自立圏構想の推進についてであります。定住自立圏構想は人口減少や少子高齢化が続く中で地方から大都市への人口の流出を食い止め圏域の市町が連携・協力しながら互いに役割分担を行い、生活機能の確保や地域住民の利便性向上など圏域と全体の活性化を図ることにより地方圏への人口定住を促進する国の政策であります。5月23日に開催された東胆振広域圏振興協議会総会において1市4町による東胆振広域圏として定住自立圏の形成に向けた取り組みを推進することに合意をしたものであります。今後は中心市となる苫小牧市が中心市宣言を行った後、年内の定住自立圏形成協定の締結に向け苫小牧市との協議を進めてまいりたいと考えております。

次にソフトバンク白老ソーラーパークの建設についてであります。本事業については石山工業団地内の町有地約5ヘクタールを賃貸借し、事業者はS B エナジー株式会社、施行者は京セラコミュニケーションシステム株式会社となっており、工期は6月18日から10月末までを予定しております。事業期間は20年間で出力規模は1,990キロワットを予定しており全量を北海道電

力に売電するものであります。本事業により本町から北海道への電力供給体制が確立されるとともに地元企業の受注機会の拡大につながるものと期待しているところであります。

次に町政執行60周年記念事業についてであります。町政施行60周年記念のキャッチフレーズを町内の中高生に募集しておりましたが527名の方から応募があり厳正な審査の結果、白老中学校3年生の小見浪理捺さんの作品「時代をこえ つながっていこう 希望と笑顔 元気まち」が特選に決定いたしました。このキャッチフレーズは記念事業のいろいろな場面で活用させていただきます。また6月15日には記念演奏会が開催され陸上自衛隊第7音楽隊を初め白老吹奏楽団や町内の中学校、高校の吹奏楽団にご参加いただき無事盛会のうちに終了いたしました。今後も記念事業を各種実施してまいります。

最後に6月6日から13日にかけての大雨についてであります。降り初めから13日午後4時までの総雨量は森野で492ミリ、白老で325ミリと6月の平均降水量よりそれぞれ2倍以上の雨量を記録したところですが、人的被害や住宅等への被害はなくポイント沼、ポロト湖の増水による私道の冠水や通行どめ等の被害対応に当たったところであります。

なお本6月会議には議案9件、諮問2件、報告2件を提案申し上げておりますのでよろしくご審議賜りたいと存じます。